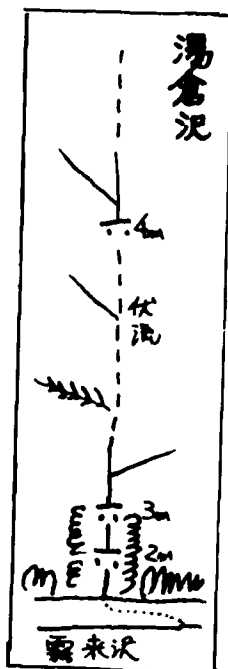


った。さらに登ると、左側から一枚岩の岩盤を伝って水が流れ込んできている。手を入れて見ると生温く、昨日降った雨水であることがわかる。その後も小沢が合流してくるが、雨水によるものであろう。

急な沢床を登りつめると、落差のある滝が連続して現われるが、水量も少なく足場もあり、全て直登。だいぶ高度をかせいだようだ。

上部にめざす尾根が見える。地図上から、996mのピークから北東にのびる尾根と思われる。根曲がり竹(チシマザサ)につかまりながら、比較的楽なヤブを越え、10時45分、大石田沢との分水嶺に立ち、遡行を終える。(記・)

[タイム] 出合(8:00)→遡行終了(10:45)



霧来沢支流湯倉沢 1992年8月23日

霧来沢の底は玉石。胸までの渡渉と泳ぎを重ねて、湯倉沢の出合に着く。泳ぎの正味は50mくらいだろう。メジロ(アブの一種)がものすごく、泳いでいても頭に群がってくる。

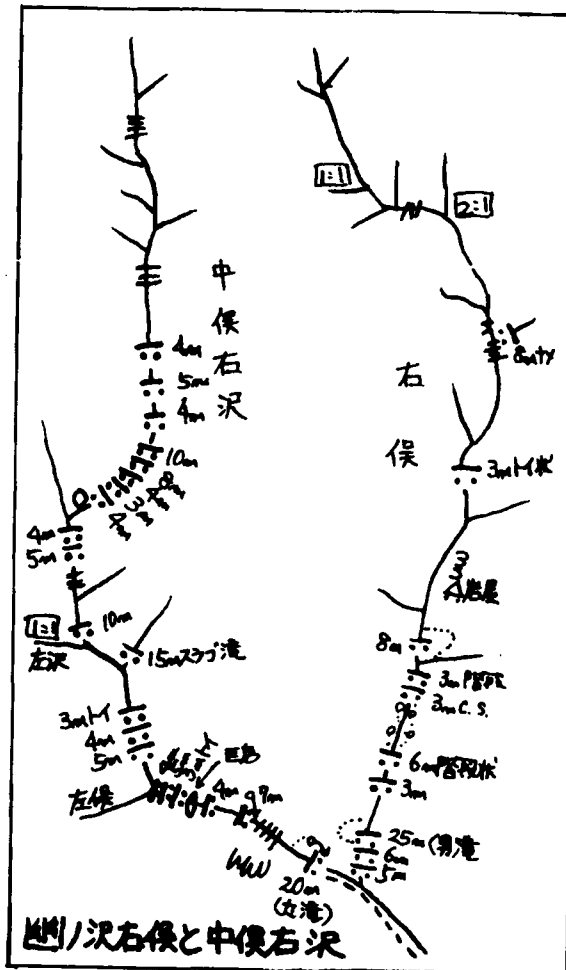
湯倉沢は、出合近くに小滝2本をかけただけで、すぐ水が涸れる。ヤブもかぶさってきたので遡行を打ち切ろうと思ったら、上部から水音が聞こえてくる。様子を見ることにして、遡行を再開する。

上部には4mほどの斜瀑が現われるが、またすぐ水が涸れてしまう。ヨモギなどのヤブがかぶさってきたこともあり、遡行終了とする。(

[タイム] 湯倉沢出合(8:15)→遡行終了(8:50)

幽ノ沢右俣 1992年8月22日

車を止めるとメジロ(アブの一種)が群がる。追い払いたたき殺しながら出発。女滝までは登山道を利用する。沢からは男滝の上部が望めた。男滝は、中ほどに



斜めにバンドが走り2段のようになっているが直瀑で、左手の岩溝を伝って、滝上部に出る。

その後はところどころに川原をもったゴーロとなる。岩屋手前の8mを高捲いた後は滝もなくなり、ヤブのかぶさった川原歩きとなる。雨も降ってきたが、ヤブをかきわけながら遡行を続ける。水流が消えたところでブナ林に入り、10分ほど登って、支尾根上に出る（高度1100m点）。（記・

[タイム] 滝沢川林道終点(8:00)
→幽ノ沢出合(8:20)→
女滝(8:45)→男滝
(9:00)→岩屋(10:25)
→支尾根(12:00)

幽ノ沢中俣右沢

1992年8月22日

L.

幽ノ沢右俣の遡行終了後支尾根上で休憩していたが、雨に濡れ体も冷えてきたので、休憩もそこそこに出発。緩い斜面をだいぶ下って、やっと水流。沢床がトイ状、ナメ状のとなっているところを過ぎると、まもなく4~10mのトイ状滝や斜瀑が連続する場所に出る。側面の岩もよく磨かれて、ブッシュを伝って下降する。その後も小滝が続くが、下降できる。

迫力ある岩壁を右手に見、100mほどのナメを気持ち良く下ると女滝。左岸を懸垂下降して、滝裏側に降りる。滝の裏側からほとぼしる水流を透して眺める岩壁が印象的であった。

(記・

[タイム] 下降開始(12:25)→左俣出合(14:10)→女滝(15:15)